

街の遊学人

囲碁で楽しく脳力アップ!

井上 一紀さん (大畑)



私が囲碁を始めたきっかけは、受験誌「常識時代」の一枚の写真です。学食でカレーライスを食へながら囲碁を打っている大学生の姿がとても楽しそうに印象的でした。

大学卒業後就職した会社の囲碁大会でいきなり3位になり、すっかり虜になってしまいました。若い頃は会社の囲碁クラブの幹事や業界の囲碁大会へ参加したり、プロ棋士の指導を受けたりしていましたが、40歳代になって仕事が忙しくなり、退職まで20年以上囲碁から遠ざかっていました。

退職後は子ども達に囲碁を教えようと思いい立ち、地元の小学校で放課後に囲碁教室を始めました。

小学校の囲碁教室がようやく軌道に乗ったころ、日本棋院などから普及の効果を挙げるためにプロ棋士を招いて大会を開いてほしいという要望があり、そこで、囲碁を教えられそうなメンバーを集まってもらい7年前に「春日部シユニア囲碁普及

会」を立ち上げました。

現在、普及会のメンバーは17名に増え、①シユニア囲碁教室の開催(公民館、児童センター、小学校)、②シユニア囲碁大会の開催、③シユニア囲碁インスタラクターの養成などのボランティア活動をしております。

特に、「春日部シユニア囲碁大会」は日本棋院、教育委員会、読売新聞などの後援を受け、今年で7回目を迎えます。毎年5月中旬、ふれあいキユープに卓内から70〜90名の子どもたちが参加してくれるのが楽しみです。

初心者にも囲碁を教えるのはとても難しく、子ども達と友達になること、お互いに楽しむこと、そして上から目線で教えるのではなく、局面を解説しながら勝負どころではいくつかの選択肢を示し、勝ち方を教えるようにしています。子どもは大人に勝つと大喜びし盛り上がります。まず囲碁に関心を持ってもらうことが大切です。



子どもは脳が柔らかいのですぐに上達します。囲碁で勝つことにより集中力や自信が生まれます。また、自分の責任で物事を判断できるようにになり、考え方がしっかりしてきます。

私たちは囲碁を教えるだけではなく、囲碁を通じて子どもを育てることを目的としています。忙しい保護者の一助になればと願っています。連絡先：090-1845-5067

「夫唱婦随」

高久 价章さん
よしあき



豊織子さん (東中野)

夫唱婦随という言葉がピッタリの東中野在住の高久さん夫妻を紹介いたします。ここはコーヒの香りと、手細工の作品でいっぱいです。

心身障害者就労支援施設等の自主作品の販売や紹介を行っている力フェ「スペース悠悠」を主宰する高久夫妻は、就労支援「ひまわり園」「ゆりのき」と生活介護「あおぞら」などで、入所者が作品の制作に一生懸命取り組んでいるのを見て感動しました。作品は売れなければ材料費

も入らない。自宅ですりたりしながら販路の拡大に努めていきました。地道な努力が報われ、徐々に売れ行きも伸びていきました。

价章さんは定年後、大半のサラリーマンがそうであるように、特にすることもなく過ごしていました。そんな時、ハーモニカの一種である単音10穴の「ブルース・ハーブ」に出会いました。元々音楽に下地があったのですぐにのめりこみました。

豊織子さんは、自彊術など身体を動かすのが好きで、華麗なフラメンコを覚えました。

やがて妻の豊織子さんの「フラメンコ」に、夫の价章さんが「ブルース・ハーブ」でコラボするようになり、介護施設などの慰問活動を始めました。私(推進員)が「ブルース・ハーブ」を聞いたのは、中央公民館でのいきが大学の学園祭でした。素晴らしい演技の演出に感動しつつ、ブルース・ハーブと聞いてピンときませんでした。二人のコラボを聞いていると、単音10穴が奏でる音色にうっとりしました。



年1回開催するチャリティーコンサートも11月20日、正風館で盛況のうちに終わりました。熱い口調で話した夫妻は、今後ますます活躍するでしょう。